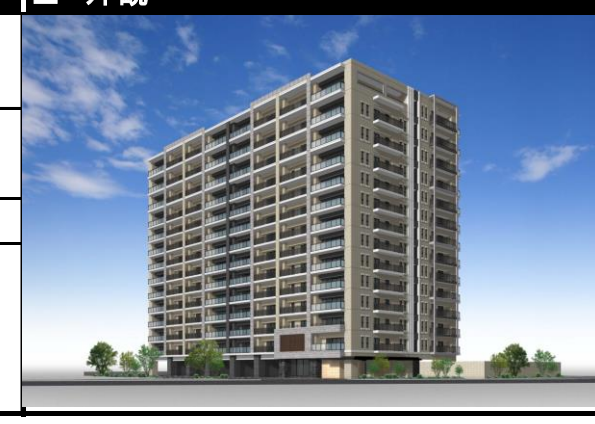
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	(仮称)神水本町マンション	階数	地上14階
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造
用途地域	近隣商業、準防火地域	平均居住人員	493 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月　0.0	評価の実施日	2015年3月31日
敷地面積	3,393 ㎡	作成者	安堂文人
建築面積	1,245 ㎡	確認日	2015年4月5日
延床面積	12,376 ㎡	確認者	安堂文人

■ 外観



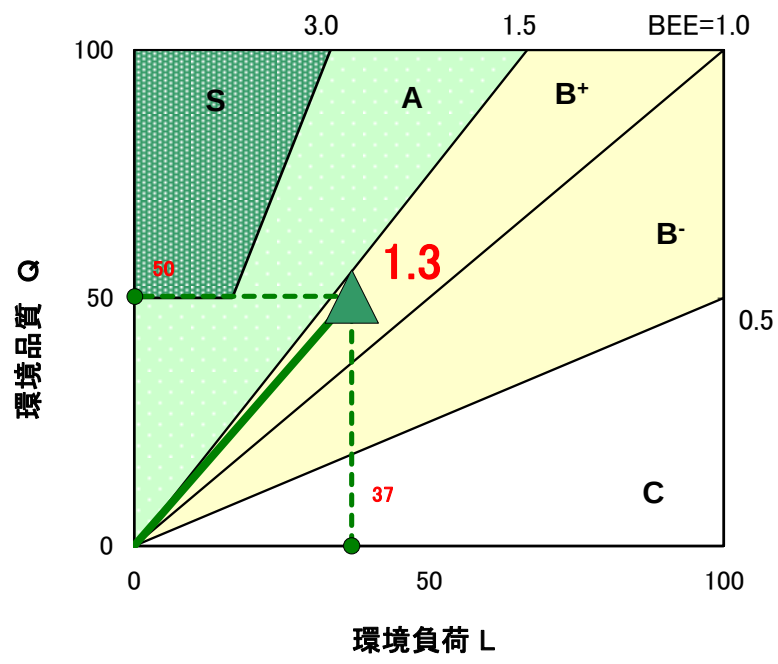
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆

BEE = 1.3

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆

排出率
83%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
83

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	97.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	66.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	76.8

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

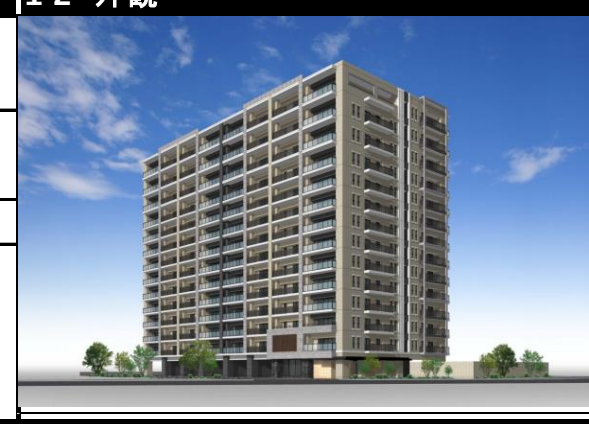
CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)神水本町マンション	階数	地上14階
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造
用途地域	近隣商業、準防火地域	平均居住人員	493 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月　0.0	評価の実施日	2015年3月31日
敷地面積	3,393 ㎡	作成者	安堂文人
建築面積	1,245 ㎡	確認日	2015年4月5日
延床面積	12,376 ㎡	確認者	安堂文人

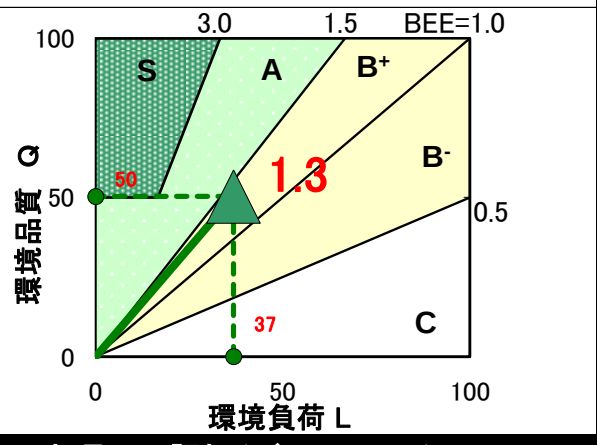
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート

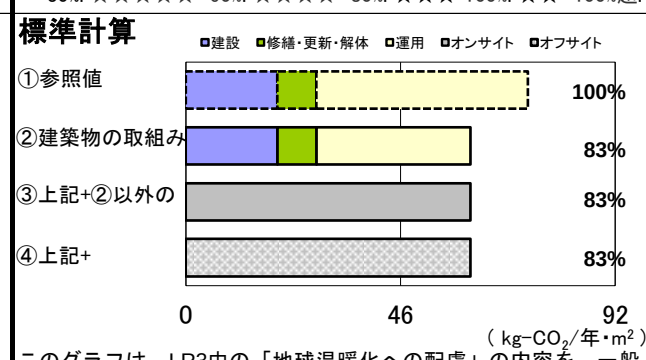
BEE =1.3

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



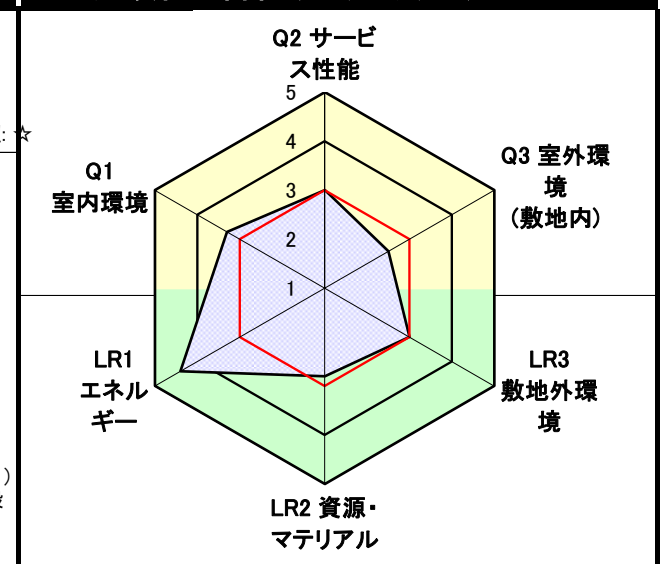
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

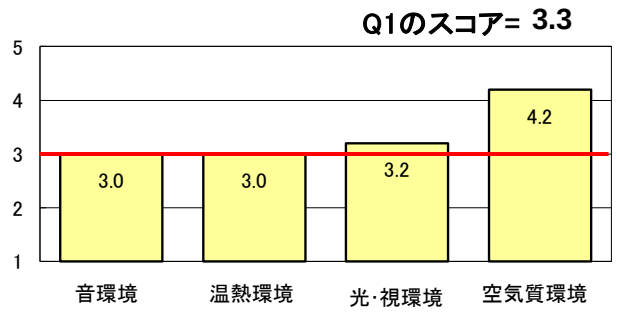
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



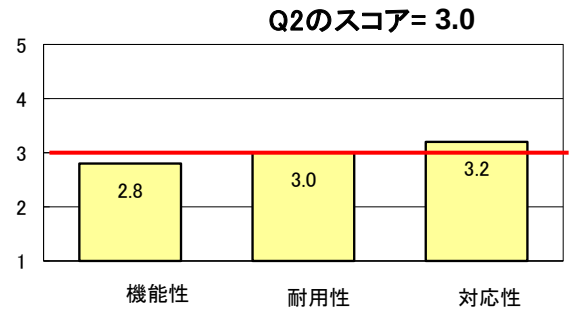
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

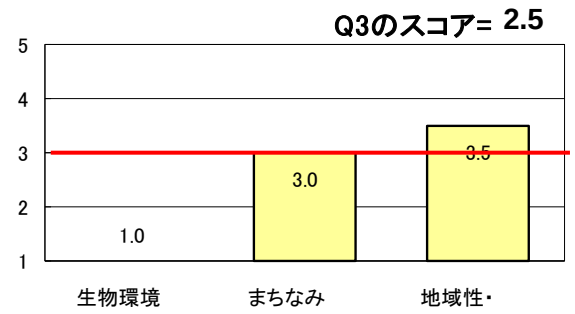
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

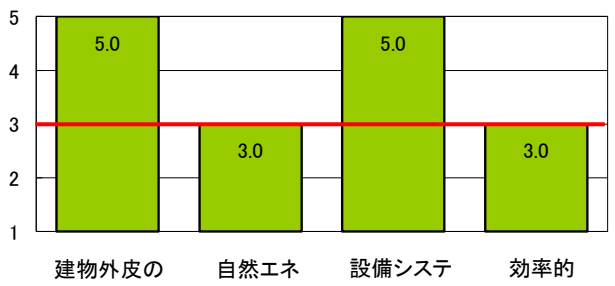


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.5

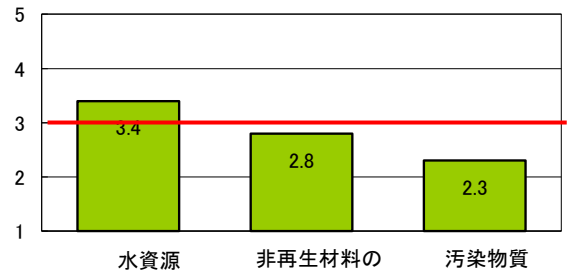


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.5

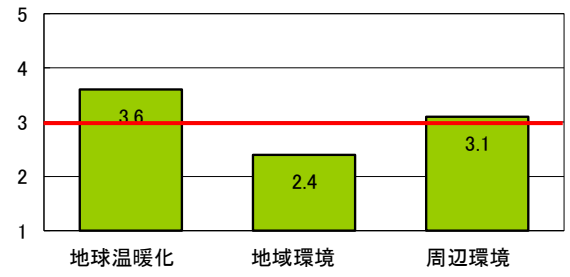
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



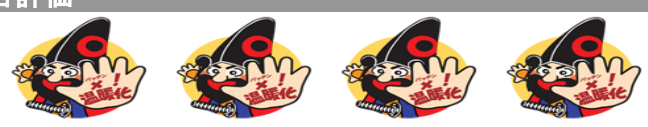
LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 83



重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 97.5

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =66.2

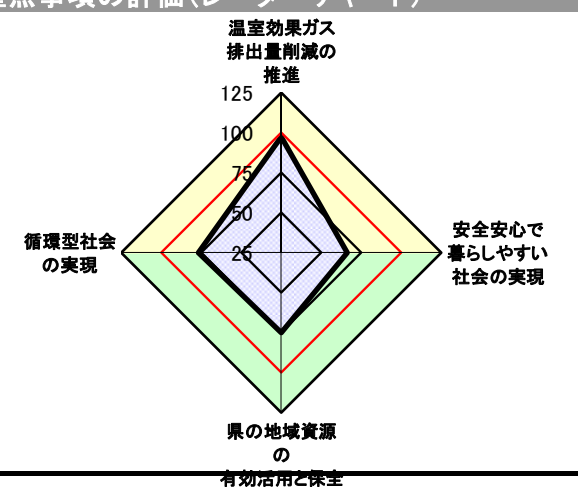
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 75.0

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =76.8

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)神水本町マンション

■使用評価マニュアル:　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.0**
Q1 室内環境			**0.40**		**-**	**3.3**
1 音環境		**3.0**	0.15	**3.0**	1.00	**3.0**
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		**3.0**	-	**3.0**	-	
2 温熱環境		**3.0**	0.35	**3.0**	1.00	**3.0**
2.1 室温制御		**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式		**3.0**	0.30	**3.0**	0.30	
3 光・視環境		**2.8**	0.25	**3.3**	1.00	**3.2**
3.1 昼光利用		**3.4**	0.30	**4.0**	0.30	
1 昼光率	4	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	共用部にライトシェルを設置	4.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		**2.0**	0.30	**3.0**	0.30	
1 昼光制御		2.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度		**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境		**4.2**	0.25	**4.2**	1.00	**4.2**
4.1 発生源対策		**5.0**	0.60	**5.0**	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	**-**	**-**	**3.0**
1 機能性		**3.0**	0.40	**2.8**	1.00	**2.8**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	**3.0**	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**3.0**	0.30	**2.5**	0.40	
1 広さ感・景観	居室の天井高は高く計画	3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		**3.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.0**	0.30	-	-	**3.0**
2.1 耐震・免震		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.0**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高にはゆとりがある。	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			–	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		植栽を適切に配置	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー等級4を取得予定	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI　非住宅 1.00　住宅(専有部) 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)		省エネルギー等級4を取得予定	5.0	1.00	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		潜熱回収型給湯器を採用	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場は住戸比100%を確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	過度な広告照明は設けない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

外壁は落ち着いた印象の色、外観とし、植栽を適切に配置して街並みと調和がとれるよう努めた。

Q1 室内環境

建築材料はF☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

階高、天井高にゆとりがある計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

駐車場は住戸比100%を確保した。
また、植栽を適切に配置して周辺の環境に配慮した。

LR1 エネルギー

給湯器は潜熱回収型を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用した。

LR3 敷地外環境

過剰照明を避け、必要以上に外部照明を設けないこととした。

その他

注）　上記の６つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてＣＡＳＢＥＥで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	*(仮称)神水本町マンション*

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)　■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	83
重点事項	重点項目(配慮項目)	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				97.5	0.40	39.00
	Q1-2.1.2 外皮性能	3.0	0.05			
	Q1-3.1.3 昼光利用設備	3.2	0.05			
	Q1-3.2.1 昼光制御	2.8	0.05			
	LR1-1 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
	LR1-2 自然エネルギー利用	3.0	0.20			
	LR1-3 設備システムの高効率化	5.0	0.30			
	LR2-2.1 材料使用量の削減	2.0	0.10			
	LR3-2.3.3 交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				66.2	0.20	13.24
	Q2-1.1.3 バリアフリー計画	3.0	0.25			
	Q2-2.1.1 耐震性	3.0	0.25			
	Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
	Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
	LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
	Q3-2 まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
	LR2-1.1 節水	4.0	0.30			
	LR2-1.2.1 雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.8	0.20	15.36
	Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
	Q2-3 対応性・更新性	3.2	0.30			
	LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
	LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数